

百人町教会

集会案内

礼拝：毎週日曜 午前10時30分
於 東京家政専門学校2階
聖書研究会：第1・3水曜 午後7時半
於 Zoom

連絡先：〒162-0066 東京都新宿区
市谷台町14-1-701 賈晶淳 方
TEL/FAX 03-6273-2930

<http://www.hyakunincho-church.com>

郵便振替口座：00180-8-565379



ろば

私の目線(九二)

「ろばの家」は再度歩き始める

高瀬 浩之

「二〇二五年問題」とは、戦後すぐの第一次ベビーブーム（一九四七年～一九四九年）の時に生まれた、いわゆる「団塊の世代」が後期高齢者（七五歳）の年齢に達し、医療や介護などの社会保障費の急増が懸念される問題を指します。二〇二五年には後期高齢者人口が約二〇〇万人に膨れ上がり、国民の四人に一人が七五歳以上になる計算ですと言われている。

ここに登場する三人。Oさん・看護師であり某市の福祉相談員、また長くNPO法人の理事長を務めてきた。Rさん・自身が重度身体障害者であり里親の経験四〇年。また某市での行政事務経験者。そして私である。

三人は地域に根を張っている「ろばの家」を活用して何が出来るかを折につけ話し合ってきた。私たちは三年前養育家庭里親を辞退し同時期に三人そろってそれぞれの職場を退職した。今後は組織化しない、今までにそれぞれが経験しなかったことをやってみようとなった。Oさんはパン焼きと家庭菜園を志しかなりの腕前になっている。Rさんはスポーツ吹き矢のアスリートをめざしている。私は手打ちそばの腕が錆びないように月に一度は試してきた。「高齢者の生き生きサロン活動」へと緩やかに進化してきた。去年一年はコロナ禍のため一度もサロンとしては開催できなかった。地域で暮らす高齢者や障害者のメンバーが元気に暮らしているか安否確認をしな

がら手打ちそばを配達している。するとちょっとした困り事等が聞こえてきた。具体的には樹木の剪定、雑草取り、花や野菜の植え付け、障子貼り、粗大ゴミの移動、台所のびったりサイズの棚板作り、ワクチン接種の予約取り、医療・福祉のアドバイス、スマホ・PCのちよつとした使い方など。

小さな隙間の困りごとを可能な限りサポートして行こうと始まったのが「チームろば」の自主活動。私たちは特定少数者へのサービスに限定しようということで意見がまとまった。困り事の相談に乗っているうちにそれぞれ、集まる「サロン活動」から「出かける訪問活動」になっていった。依頼者の方々とも相談して働く三人の時間給も決めた。

二〇二五年問題が目の前に控えている中、行政の思い通りには進まない、また行政では解決できない超高齢化社会を生きる私たちも自分の身近な問題として、身近な他者となんとか乗り越えていかなければいけない非常に厳しい現実が待っている。大きなことには立ち向かえないが、身近な小さなことで互いに助け合いそれぞれの人生を全うしていくことが益々重要になってくる。お互いソロ活動を最優先しながら、ときどきグループとして取り組む事案が発生した時は『チームろば』の集まりを持ち即断即決で事にあたる。グループで解決できない問題は全力を挙げて専門機関や専門家につなげていく、決して無理をしないことがモットーである。

完全な愛は恐れを締め出す

ヨハネの手紙Ⅰ四・七―二一

賈 晶淳

二月二四日(木)にウクライナへのロシアの侵攻が始まり、二月二七日の証詞では列王記下一八章一節―二二節を読み、前八世紀のアッシリアの侵略に対応するヒゼキヤ王の話をご一緒に考えました。そして、翌週の三月二日(水)に四旬節が始まりました。ただ、ロシアの侵略行為はその後も続いており、軍はもちろん民間人の犠牲も増えているところです。そのため世界各地でロシアの侵略に対する抗議集会や祈祷会などが開かれています。本日の私たちの礼拝も世界の祈りに合わせることができればと思いました。聖書テキストは選びに少々悩みましたが、これまでの通りにヨハネの手紙一の続きを読むことにしました。幾度か読み返しましたら四旬節にもウクライナ事態にも関連する気がしました。まず、本文の見出しは「神は愛」で、続く言葉は「愛する者たち、互いに愛し合ひましよう。」という呼びかけで始まっています。愛はヨハネの手紙の一貫したテーマであります。関連して証詞の題も一八節の言葉を引用し「完全な愛は恐れを締め出す」とつけました。ここで「完全な愛」とは神の愛のことですが、

新共同訳聖書でこの言葉は旧・新約すべてを通してここしかない表現です。英訳 (NIV) は perfect love になっています。ギリシア語は telos agape で、「完全」の他に「成熟した」などの意味で形容詞的に使われています。また一七節と一八節に一度ずつ出ている「全うする」という言葉がありますが、ギリシア語は完全という言葉の動詞の意味で使われている telosoo です。「完成する」、「成し遂げる」などに訳されますが、英訳も perfected、perfection と訳されています。

ここで「完全」、または「全うする」とはどのような意味で使われているのかを理解する必要がありますと思います。一八節を見てみます。愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。

この個所だけに「恐れ」という言葉が四回出ています。「恐れ」のギリシア語は phobos で「不安」という意味もあります。最初の「愛には恐れがない」の後に、それを更に強調しているように「完全な愛は恐れを締め出します」が出ていて、「恐れは罰を伴い」を挟んで最後に、「恐れる者には愛が全うされていないからです」と、三カ所が「愛」と関連して記されています。これらの表現から考えられま

すのは「恐れ」、或いは「不安」というのが、何らかの理由で元々あったにも関わらず、完全な愛によって締め出せるという話です。

この「恐れ」についてですが、ヨハネの手紙の以前の証詞を思い出して頂きたいです。ヨハネの手紙の内容は当時の教会の中で大きな問題になっていたグノーシス派の考え方に注意を呼び掛けるためのものでした。特に彼らの主張の一つに「仮現論」という考えがありますが、それは神が御子イエス・キリストの姿でこの世に來られたのは本当の人としてではなく、神の霊が人の身体を借りて來られたという主張です。そのためキリスト者の信仰の原点とも言えるイエス・キリストが十字架上の苦しみを受け死に、復活したというのは虚偽であるということです。このような二元論的な考え方が当時のキリスト者を大変混乱させました。そこで前回読みました四章二節に「イエス・キリストが肉となって來られたということをごに公に言ひ表す霊は、すべて神から出たものです。このことによつて、あなたがたは神の霊が分かります。」と、イエス・キリストが完全な身体を持つ人であったとヨハネの共同体が信仰告白をしているのです。理性と身体を持つ人が苦しみと死の前で恐れや不安を覚えるのは当然のことと思います。

それが生きている証拠であります。イエスが十字架の事件を前にし、恐れと不安を持つ存在であったことは福音書を通し確認できます（「この杯を…」マルコ一四の三六等）。「完全な愛が恐れを締め出す」というのは人間イエスだからこそ当てはまることでグノーシス主義は通らないものです。ここにヨハネの手紙の主張の意味があるのです。即ち、イエスの愛は「完全な愛」であったということです。

そして、一二節にはその愛をイエス・キリストに従う人々の内で全うされることが記されています。

いまだかつて神を見た者はいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってくださり、神の愛がわたしたちの内です。

恐れと関連してもう一つのことが考えられます。原始キリスト教共同体の信仰における重要な中身として「差し迫った終末」、即ち、世の終わりが近いという考えがあります。

こうして、愛がわたしたちの内に全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。

右の一七節の真ん中に「裁きの日に確信をもつ」という表現がありますが、この「裁き

の日」とは世の終わりのことを言います。差し迫った裁きの日を前にした人々に恐れと不安があったということ、「確信」とは愛が全うされることで、不安と恐れが締め出せる「堅い信頼」のことを意味します。

今度はこれらのことをウクライナ事態と関連させて考えたいと思います。

今回、ロシアのプーチン大統領がウクライナの侵攻を命じた理由は分かりません。クリミア半島を手中に入れ、また今回の行動に出たというのは領土拡張の目的もあるでしょう。

旧約聖書には紀元前九世紀頃に北イスラエルのアハブ王が宮殿のそばにあったナボトのブドウ畑が欲しく、売るのを拒むナボトを殺し自分の物にしたという記録があります（列王記上二二章）。その時のナボトのことを想像してみます。アハブと妻イゼベルによる殺害のプロセスの中で怯えながらも必死に先祖代々の土地を守ろうとしたナボトの姿です。今のウクライナの人々の姿でしょう。

恐れと不安は常時あるものではなく特別な瞬間に感じるものです。命や財産が狙われているウクライナの人々の現在がその瞬間です。恐ろしい戦力を持ち、自分たちの命や財産を破壊しながら奪いに来る者らを前にし、怯えない人はいません。しかし、先祖代々の土地

と愛する家族を守ろうとして必死で闘っているウクライナの人々とその勇氣ある行動は愛を持って恐れを締め出している姿です。愛を全うする姿です。

それに反してロシア軍側の多くの若者は命令で動くだけで、初めは訓練の一部だと思いい、攻撃が始まると、自分たちが何しにウクライナに来ていたのか知らなかったという話を聞きました。守るべきものがなく、大義名分も欠けている中、相手のことを破壊し殺す心境は大変複雑なものと思えますが、そのため戦場における死の恐れで怯えているにも関わらず、彼らにはその恐れを締め出す力が弱いことでしょう。

プーチン大統領もキリスト者であると聞いています。同じ神を信じ、神を恐れる者であれば当然今回の侵略が間違いであることと判断していると思います。多くの若者たち、そして民間人の命が欲望の手段と道具として犠牲になっていることはとても悲しいことです。どうか預言者エリヤを通してアハブ王に語られた神の声、「主はこう言われる。あなたは人を殺したうえに、その人の所有物を自分のものにしてしようとするのか」（列王記上二二・一九）を聞き入れることを祈ります。

（二〇二二年三月六日証詞より）

コロナ禍に於ける教会

白石教会 池田 春善

大都市の教会は密を避けて三〇分の短縮礼拝、讃美歌は一節のみ、説教も短く、教会にはなるべく来ないように呼びかけ、Zoomでの礼拝が続いているようだ。それ故に地区のいろいろな集会も学びの集いも中止。これだけ毎日、感染者の数字云々と報道されれば、人によつては警戒心が大きくなり、他人を寄せ付けない態度をとる方も出るのは避けられないこと。けれどもそういうことは理解しつつも地方の小さい教会のとの態度は若干異なる。教会までの道のり、他人には会うことはめつたにない。車の利用も多い。皆さんが近くにお住まいである。会堂でもいつもと変わらずパラパラで、そういう点では格別な対策は必要ないとも思えるが、会堂掃除はまめに玄関には体温計、マスク、ハンドジェルは備える、と記してもそれらは献げられたものだ。

今年度は、新たに水曜日に「聖書を読む会」を立ち上げ、就任二年目の働きがスタートした。礼拝の時と同じように、玄関でささやかな儀式を行いながら集う。参加者は途切れないで増えている。夏には神学生の実習が隣の角田教会と協力し合つて一か月間、出入りの賑やかな夏となったが無事に済んだ。

だが、家庭訪問はなるべく控えた。クラスター発生の故に「濃厚接触者」と見なされる方々もいて教会に通えない人たちには手紙を出し続けた。入院の方々にも、また緩和ケア病棟にも、困つたのは面会の許可は一度限り。或いは全く許可なし、受付で戻るほかなかつた。それなら塀の外から部屋の窓に向つて大声で呼びかけようかな、とも真剣に考えたほどである。若かつたらそうしたかもしれない。その代わりに出す必要がなくなるまで毎週二回ずつ、みんなで寄せ書きをして投函した。そしたら切手シートを沢山献げられた。このようにいろいろな人たちの心と力が合わせられて「寄せ書き教会」の誕生となった。

そういう中で葬儀もあつた。最大に広げた会堂の広さから、四〇人が限度と計算して案内した。しっかり時間をかけ式を終えた。だが教団新報でのみ、教師の消息が届くのは寂しい。普段と変わりなく会堂を広げて礼拝後の情報交換、会食も話し合いもする。これらはここ白石だから出来る事だろうとも思う。互いに顔を合わせる時間は限られていても、省略してはいけない部分がこれではないか。こんな時だから夫々に問題もなく、話し合う場も持たないで、とは言わない。大きな流れでは顔を合わせる機会が極端に少なくなった。

けれども、こんな時だからこそ、その中に生きることを余儀なくされているので、話し合いたいこと、確認したいこと、学びあうこと等が沢山ある。教会に与えられている務めとしてこういうところは大切にしたい。内向きの生き方で人間関係や体制からはじき飛ばされてしまった人たちの存在も忘れるわけにはいかない。いつも関りは持ち続けておきたい。

二二年度に向けて二月末に話し合いの時を持った。ヴィジョンは如何にと。二一年度の事業にプラスして「福音書を読む会」の開催、献げられたピアノを活用して音楽集会、図書コーナーの設置等が出た。命がある限り具体化したい内容である。

もうすぐ東日本大震災一一年記念礼拝が開催される。会場でも、各家庭にも希望すれば配信されるが、会場に出かけて行つて涙を流すだけだとしても、今を生かさされて生きていく者として互いに通じ合うものがある、それを大切にしたい。流されないうちにも。宣伝では「復旧」をうたい文句にしているところがあるが。復旧したのは見える極一部で、まだまだ放射能も、取り残されている。随分前の修養会で昨年召された坂敬夫兄は「教会は社会問題のデパート」と発言された。世にある限り、その中にいる。

石垣へ移住しました

小林 明

二〇二一年四月六日(火)、沖縄県石垣市へ大阪から引越しました。約一六年間同居していた母が二〇二〇年八月に亡くなり、母が営んでいた居酒屋と二階にあった自宅も無くなりました。また教団部落解放センター主事も近いうちに次の世代へ譲りたいと考えていた中で「コロナ自粛」があり、大阪生野教会辞任やお世話になった方々に迷惑をおかけする事になってしまいました。移住しました。

現在平日は、朝から夕方まで教会関係の保育園で事務・掃除・畑のオッチャンとして働いています。初めて乳幼児と出会いました。子どもたちは一人ひとりの心と身体の成長が違う。玄関前でお母さんに抱き着いて泣いて離れなかった子が、目を追うごとに成長していく、その姿が可愛いし、また色々ビックリする「保育園ワールド」は不思議な世界です。石垣はコスモスの花が一年中咲き、様々な花が次から次に咲きます。また黄金色のサナギになるオオゴマダラ蝶もいます。島の人はみんな優しいですし、自然豊かで青い空、蒼い海は美しいと日々感動しています。四月には石垣空港も国際空港になり、台北や香港の直通便が始まる予定です。そのうち韓国仁川空

港もつながると想像します。別の噂ですが「クルーズ船旅行」の九州―奄美―沖縄島―宮古島―石垣島―台湾もそのうち就航するだろうと言われています。

自衛隊配備

二月二七日に石垣市長選挙がありました。現市長は四期目です。色々と強引に進めるタイプです。大阪の維新政治に似た方法で次々に進めています。色々問題も多いのですが、一番ダメだと思った事は、二〇二一年六月に石垣「市自治基本条項」から「住民投票に関する条項」を廃止する議案を出し、議会で押し通しました。石垣島への陸上自衛隊誘致に対する住民投票を求めてきた人々は「住民投票(民意)を示す事をさせないための暴挙だ」と怒っています。ここ数年で与那国島、石垣

島、宮古島、沖縄島、奄美大島へミサイル基地が配備される事になりました。今回のロシアによるウクライナ侵略戦争の報道で、ネット内のカキコミ欄等では「日本は憲法改正、核ミサイル配備、防衛費増強」で一杯です。これは台湾有事や尖閣諸島に中国が攻めてくる、その危機意識を煽る誘導的・フェイク的情報操作でもあると思います。こんな事はやめてほしいです。島々にはシェルターもあり

りませんし地下鉄もありません。海上封鎖されたら逃げる所もありません。食料・水・ガソリンはすぐに枯渇するでしょう。現代のミサイル攻撃は三六〇度、全方面、地球を一周して狙ったマトに当てるそうです。石垣島のミサイル防衛が出来ても三六〇度を守り切れるのか? 期間は三日間? 一週間? 一カ月? 一年? 中国全土から、駆逐艦から飛んでくるミサイルに対して、住民の命や財産は?

笹渕先生

笹渕昭平先生が一〇月一四日に天へ召されました。コロナ禍の闘病は、みんな苦労されていると思いますが、笹渕いづみさんとご家族も大変な看病・介護だったと思います。笹渕昭平先生が残された「前夜告別式のメモ」には、浅野順一先生、木田献一先生の研究課題であったらうヨブ記やエレミヤ書など旧約五カ所、新約三カ所の指定でした。笹渕先生、笹渕いづみさんは数年前に百人町教会の皆様が石垣へ来て下さった事を大変喜んでおられました。このコロナが落ち着きましたら、また皆様と一緒に石垣で? ソウル明洞・仁寺洞? 高田馬場で? またちよつと一杯! ? と願っています。皆様、お元気でお過ごしください。

掛井さんさようなら

小池 常隆

雪にならずに雨

しとしと降りそそぐ。

家の中 一人

さむしさ、寂しさ、さみしさの中、

掛井さん逝くの知らせ

悲しみと寂しさが深まる。

掛井さん。笹淵さんを追うように

旅立った。

この二人は、小生にとって、この世の中で最も敬愛し、尊敬する人物である。

寂しさが、いやが上にも襲って来る。

四〇年も前の事だが、掛井さん夫妻は、ヒューストンに居た我々の家に訪れてくれた。

掛井さん夫妻を美術館に案内した。

そこには、サイトンブリという聞き慣れない

画家の絵があり、その事を教えてもらった。

その絵は、白板の片隅に小さく絵が描いてあ

る、それだけだった。次に美術館で教わった

エルンストの彫刻のある家に向かった。

その彫刻は庭にあった。自分には良く解らない。

美美さんが、その家の台所にピカソの絵があると教えてくれた。びっくりした。

その後、マチスの彫刻を見に、ダウンタウンへ。ビルの合間に置かれていた。ビルの八

階には、それを紹介するでっかい彫刻があっ

た。東銀座のビルにある、掛井さんの『踊る

人』というでっかい彫刻を思い出した。今にも

踊り出しそうな迫力だ。

ヒューストンで、大きなキャンパスの絵、

二枚描いて家に置いていってくれた。我が家を

訪れてくれた人にはお馴染みだ。

推測だが、この絵は、都庁中庭にある『風にそよぐ』の下絵の様だ。都庁の中庭には、彫刻群があつて、その中の一番右に飾ってある。

確か、池袋の駅前広場にも、掛井さんの彫

刻がある。

掛井さんの家を訪れた時、顔の自画像があ

った。

当然だが、余りに似ているので驚いた。

掛井さんは、当然の事ながら芸術家としての感性が豊かだ。

人間の機微にもするどい。H牧師が亡くな

った時、その知らせを聞いた会員等が一瞬その死を軽んずるそぶりを示した。それを察し、

厳しい目でそれを制した事を思い出す。人は人、行為は行為と掛井さんの感性が働いたのだろう。

余りに沢山の思い出がある。

とにかく残念だ。

寂しい、さむしい、さみしい。悲しい。

掛井さんさようなら。



百人町教会三〇周年記念礼拝にて

天にある者も

地にある者も ハレルヤ

笹刈いづみ

神様が御子イエス様を送って下さり、罪の満ちたこの世の人間、私たちの罪を背負い、ゆるし、生きるよう励まして下さっていることを心より感謝します。

イエス様に出会い、救われ、新しい人生を力のある限り歩んだ多くの先達に思いを馳せ、そして今現在のこの世で、主の声を聞きつつ日々闘っておられる多くの方々を思う今年のクリスマスです。天にある者も地にある者も心一つにして、この困難に満ちた先行きの見えない世界で、希望を失わず、神様の願いに耳を傾けつつ歩めますように祈る毎日です。

私の伴侶笹刈昭平さんは、去る二〇二一年一〇月一四日朝九二歳で肉の生を終え召天いたしました。石垣の我が家で私と子供達、孫達に囲まれ見守られ眠るような最期でした。意識を失う二、三日前まで声に出して祈りをし、二人で主の祈りをし、主を仰ぎ、世界の平和を希い、皆に感謝し、又皆に愛された見事な人生でした。病を得てから三年でしたが「このままここでいい。」と自然死を願い、全てを神様にゆだねた姿に、訪問看護して下さったお医者さん（キリスト者）が「こんな

見事な死はない。いづみさん、皆にこの事を語って下さい。」と申されました。コロナ下で家族葬でしたが、告別礼拝を心込めて小林明牧師がして下さり、家族一人一人が思いを語りました。私は昭平さんと結婚して五七年になりますが、家族に「お父さんは自分の事は何も望まず、愚痴を言わず、人の悪口を言わず、人をゆるす人でした。お父さんに出会い、教えられ、愛されこんな幸せな人生はありません。これからも何かあつた時はお父さんの背中を見て歩んで欲しい。」と言いました。

二人が美竹教会で出会い結婚した時、笹刈が敬愛してやまない浅野順一牧師から送られた色紙に「人は己れの道を考えはかる。しかしその歩みを導くのは主である。」（箴言一六章九節）とありましたが、机上に今も掛けられ、本当にその通り、主に導かれた歩みだったと思います。信仰による決断は強く、一心に実行する歩みでしたが、本当に多くの方々に出会い、助けられ、祈っていただき、数知れないお交わりを思い感謝で一杯です。

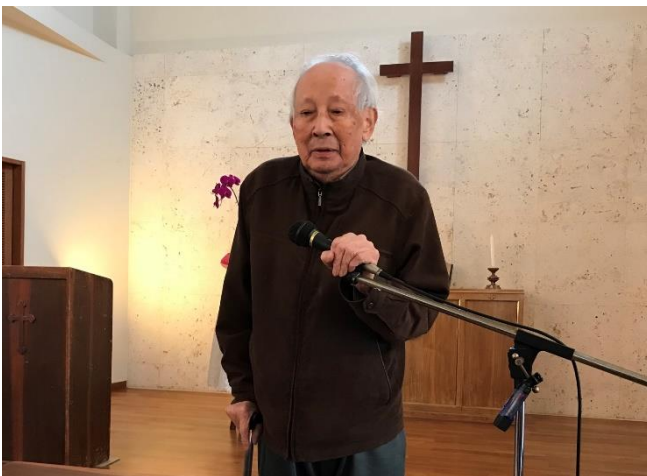
今本人の肉体がない部屋で涙は絶えませんが、主イエスが復活され、今もとわに私たちが、道を示し続けて下さる事が、真の復活であると強く思います。私も天に召され

るまで主にゆだね励まされ小さな生を全うしたいと祈っています。皆様の励まし、お交わりを心から感謝し、主にある交わり、そこに天国があると信じています。ありがとうございます。（二〇二二年二月）

笹刈が好きな聖書と讃美歌

創世記二二・一〜九、ヨブ記一・一〜二二、エレミヤ書一・一〜一九、マルコ福音書一六・一〜八、ヨハネ福音書二一・一〜四

讃美歌（一九五四年版）一五一番、三三八番、讃美歌二編 一四六番、二八〇番



2018年八重山中央教会にて

図書紹介

『忘れられた殉教者』

日蓮宗不受不施派の挑戦』

奈良本達也・高野澄著

小学館ライブラリー

キリシタンの殉教史はよく知られているが、
 仏教にも禁制の対象となった一派があったこ
 とを、私は知らなかった。賈先生の証詞で教
 えられ、本書を知った。私たちの思想の盲点
 が、徳川三百年の間の激しい弾圧を見えない
 ものにしてきたのではないか。その前の織田・
 豊臣政権でも、不都合となれば宗教も軍事力
 で蹂躪されてきたのだが、禁制下の弾圧は一
 層残忍で、流罪も殉教者も非常に多かったの
 だ。心の遺伝子として現代人も当時の何かを
 受け継いでいるはずだ。それを現代に引き寄
 せて読んでみたいと思った。

今日、日本人は政治に無関心と言われ、世
 界的に評判が芳しくないのだが、かつて信仰
 の自由と教義を守るために断固として権力に
 立ち向かう人々がいた。何十万人もの人々が
 団結し、徳川幕藩体制と、三百年も戦い続け
 た稀有な歴史があったのである。権力側がど
 れほど宗教をつぶしてきたことか。

その一派は、不受不施派という。日蓮宗の
 信者でない者からの布施は受けず、施しや供

養もしない、という宗是だ。一神教である点
 でキリスト教と親和性もあるが、拷問も死も
 覚悟して封建君主の失政を糾弾したこと等、
 隠れキリシタンとは相違点も多い。

自らの信仰への不動の確信の上に立ち、あ
 の封建時代に、天下殿への服従よりも、自分
 の信ずる仏法の正義に殉ずる道を選んだこと
 は特筆すべきだ。いよいよ国主諫暁（かんぎ
 よう）に出ようとした時には、断食をしたり、
 身心を鍛え拷問に耐えられるように備えたとい
 う。また信徒たちも激しい弾圧を受けたが、
 その中から有望な子供たちを密かに教育し、
 後継僧を育てていった。肉食妻帯が禁じられ
 ていたため、僧は世襲ができなかったからで
 ある。断食入定といって長い時間を苦しみ死
 んでいった女性たちもいた。法華経への信心
 そのものを成仏の鍵とした。

本を通して、一生のうちで出会うことので
 きない、想像しえない他者に出会うことができた。

明治に禁教が解かれた時、岡山県を中心
 にお数万人の信者が潜伏していたという。最
 も弾圧の激しい地域で、生き残ったのである。

八丈島だけでも、千八百人という流人がい
 たという。隠岐、対馬、佐渡、遠い島々で、
 流罪の僧たちの列をなす墓標が、死んでもな
 お語り続けているように思う。（宮崎 亮子）

ろばのせなか

なんと悲しい春でしょうか。三・一一の春、
 琉球・奄美の島々に着々と軍事基地建設が進
 められている春、核で脅しながら侵攻する軍
 隊の前に泣き叫ぶ人々の声と、虐げられてい
 る世界各地の人々の嘆きが聞こえる春。受難
 のイエス様を重く深く深く思わされるこの春です。

二〇二五年問題に触れながら、今暮らす地
 域での活動を軽やかに書いてくださった高瀬
 さん、コロナ禍の下、地方教会が向き合う現
 状と共に希望を語られた池田さん、移住され
 た石垣の地で触れた現地ならではの報告と、
 笹刈さんのご葬儀の様子を発信してくださ
 った小林さん。不受不施派という日本の仏教史
 に残る殉教者達への想いを記された宮崎さん。
 厳しい現実を語りながら、どなたにも共通に
 流れているのが、悩みや苦しみの中から、な
 お希望をもって立ち上がるという信仰ではな
 いかと教えられます。

昨年、今年と立て続けに、私達は大切な信
 仰の先達を御許に送りました。小池常隆さん
 には、先号の笹刈昭平さんに続き、掛井五郎
 さんへの「さよなら」を書いていただきまし
 た。敬愛し尊敬するお二人への別れの悲し
 さが胸を打ちます。笹刈いづみさんの「ハレル
 ヤ」の言葉に励まされ、希望の裡にイースタ
 ーを迎えたいと思います。

(泉谷 五十鈴)